

「雹が積もる」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私は過去に、雹で怖い思いをしたことが2度ある。一度目は小学校4年の時、学校の友達との扇山ハイキングの帰り道。中央線の四方津(しおづ)駅の近くまで来た時、突然大粒の雹が降ってきて、みんなで公園のトイレに逃げ込んだ。雷鳴と電光の中、トタン屋根にバチバチ雹が当たった。男の子も女の子もひとかたまりになって悲鳴をあげ、生きた心地がしなかった。

二度目は数年前の山手線の大塚駅前。空が真っ暗になり、雷鳴が轟いた直後、猛烈な勢いで雹が降ってきて、駅前が真っ白になった。都電の線路が雹で埋まって、電車が立ち往生していた。駅前交番の巡查さんもパニックに陥って、スピーカで「雹です!みなさん、危ないです!雹が降ってます!」と意味不明のアナウンスをしていた。それ以来、激しい降雹には遭遇しなかった。しかし、昨日(8月2日)、わざわざ積乱雲の真下まで行って、その現場を見ることができた。

雹は、真夏に発生する非常に優勢な積乱雲の真下にだけ降る。外気温は25℃以上あるのが普通で、雹は積もっても、あっという間にとけて流れてしまう。雹の観察は、積乱雲の真下で降雹直後にしかできない。



自動車道は車がたくさん通って雹をつぶしてしまう。しかも雹は水よりも軽いので、降った雨に流されやすい。雹は、草の上や歩道に積もりやすいようだ。この表の結晶を更によく観察してみて、大変面白い事実気づいた。(つづく)



「国道146号線の歩道に積もった雹」 2015, 8, 2
長野原町応桑交差点。この時もまだ降っていた。